

会 議 録

会議の名称	指定管理者選定委員会（第24回）	
事務局	企画財政部 企画政策課 企画政策係	
開催日時	平成26年7月30日（水）10時15分～13時05分	
開催場所	小金井市役所本庁舎3階 第一会議室	
出席者	委員	出席委員 4人 委員長 武田 真一郎 委員 副委員長 益田 あゆみ 委員 委員 飯島 康 委員 井原 秀憲 委員 欠席委員 1人 本木 紀彰 委員 専門的知識を有する者 2人 専門委員 鈴木 輝一 委員 間瀬 勝一 委員
	担当課	コミュニティ文化課長 平岡 良一 コミュニティ文化課文化推進係主事 岡崎 章尚
	事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課副主査 廣田 豊之
傍聴の可否	可 一部不可 <u>不可</u>	
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 平成26年度 諮問第3号 小金井市民交流センターの指定管理者候補者の選定について て (2) その他 3 閉会	
会議結果	別紙会議録のとおり	

第24回小金井市指定管理者選定委員会

日 時 平成26年7月30日(水) 午前10時15分～午後1時05分

場 所 小金井市役所本庁舎3階 第一会議室

出席委員 4人

委員長 武 田 真一郎 委員

副委員長 益 田 あゆみ 委員

飯 島 康 委員 井 原 秀 憲 委員

欠席委員 1人

本 木 紀 彰 委員

専門的知識を有する者 2人

専門委員 鈴 木 輝 一 委員 間 瀬 勝 一 委員

担当部局職員

コミュニティ文化課長 平 岡 良 一

コミュニティ文化課文化推進係主事 岡 崎 章 尚

事務局職員

企画政策課長 水 落 俊 也

企画政策課長補佐 中 田 陽 介

企画政策課副主査 廣 田 豊 之

(午前10時15分開会)

◎委員長 こんにちは。

ただいまから、第24回指定管理者選定委員会を開催いたします。

小金井市民交流センターの指定管理者候補者の選定についてを議題といたします。

それでは、前回に引き続き第2次審査を行います。

(こがねいしてい共同事業体入室)

◎委員長 本日は、お忙しいところ、また、お暑い中を、小金井市指定管理者選定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

ただいまから、こがねいしてい共同事業体さんに対する第2次審査を始めます。

まず初めに、提出していただきました申請書等に基づき、提案内容に沿って、15分で簡潔に説明をお願いいたします。時間が来ましたら、途中でであっても終了といたしますので、ご注

意ください。終わる3分前に一回ベルが鳴ります。時間が来ましたら、また鳴りますので、そこで打ち切りとなります。ご説明いただいた後に各委員から質疑応答を20分程度行います。

では、説明をお願いいたします。

◎こがねいしてい共同事業体 本日はプレゼンテーションの機会を頂戴し、まことにありがとうございます。私は、野村不動産パートナーズ株式会社PPP事業推進部長の[]でございます。

私ども、こがねいしてい共同事業体は、弊社とサントリーパブリシティサービス株式会社の2社で構成しております。1期目の指定管理者として、立ち上げから、今日まで構築してまいりました実績を生かし、より一層、市の文化芸術振興に貢献してまいりたく、2期目の提案をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず、本日のメンバーを紹介します。

順に、野村不動産パートナーズ株式会社PPP事業推進部公施設営業課課長代理の[]でございます。

現指定管理責任者兼施設管理マネジャーの[]でございます。

サントリーパブリシティサービス株式会社文化ハピネス事業エグゼクティブマネジャーの[]でございます。

現交流センター館長、アマハでございます。

よろしくお願いいたします。

それでは、改めまして、当共同事業体を構成します私ども2社ですが、野村不動産グループは、市内にかつて独身寮がありましたので、多くの幹部職員がこの地に愛着を持っております。隣接するマンションも当社グループが分譲し、現在も管理をしております。

サントリーパブリシティサービス、通称SPSは、サントリーホールに始まるレセプションの生みの親と言われますが、小金井市民交流センター開設に備えて3年にわたり手がけました小金井市民のためのレセプション講座以来のご縁がございます。代表企業の野村不動産パートナーズが施設管理とともに全体の責任を担い、構成企業のSPSが運営事業を担当いたします。立ち上げに際してのさまざまな業務、時に困難な状況もあった中で築いてまいりました協力関係は既に磐石なものとなり、両者一体となったチーム小金井ができ上がっております。2期目もこの体制を維持し、より強固なものいたします。

それでは、ここから、募集要項の評価項目に沿って、現館長のアマハよりご説明させていただきます。

現在、小金井市民交流センターの館長を務めておりますアマハでございます。

開館から現在に至る、この2年余り、私どもは市内唯一の文化施設である小金井市民交流センターの基盤整備を進めてまいりました。武蔵小金井駅前にいいホールができたという評判を形成することにも力を注いでまいりました。特に大ホールの響きのよさは広く知られるようになり、広域からの集客にもつながり、小金井市の文化的イメージアップに貢献できたものと考え

えます。これにより、稼働率は当初の想定を大きく上回り、日数ベースでは、現在、90%を超えております。

まずは、適正な管理運営を確保するための私どもの理念、運営方針からご説明申し上げます。2期目を迎えるに当たって、改めて目指すところを行動方針として様式1に掲げました。駅前であって、文化芸術センターではなく、交流センターであることのゆえん、そこにこの施設ならではのあり方を考える大きなポイントがあると思っております。それが地域コミュニティの「新しい広場」としての役割です。これは、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、いわゆる「劇場法」にも文化施設の役割として掲げられています。待ち合わせや雨宿り、バス待ち、自習、トイレ利用でも構いません。小金井市の暮らしの中で、どなたにとっても身近で居心地のよい日常の場所であることが何より大切であると思っております。この2年間、ここにおいて、毎日、ご来館者と接してきた私どもだからこそ、今、次期に向かって、スタッフ全員に共通するのが、「まちを、市民を、元気にする！」ということに貢献したいという強い思いです。安心・安全、公平・公正に加えて、効率的で透明性の高い管理運営は言うまでもありません。今また大きな問題となっております個人情報管理についても、法律、条例、既に策定しましたプライバシーポリシーや文書管理規程を遵守して、適正に管理、運用してまいります。本社の専門部署によるセキュリティ対策やコンプライアンス研修も講じてまいります。

続きまして、事業者の現状と実績について申し上げます。様式2をあわせてごらんください。私どもはそれぞれ、野村不動産ホールディングス、サントリーホールディングスのグループ会社でございまして、経営状況は安定してございまして、指定管理業務での実績も豊富に持っております。

代表企業の野村不動産パートナーズは、交流センター立ち上げから代表企業を務めてきましたビル管理の野村ビルマネジメントとマンション管理の野村リビングサポートが本年4月1日に合併して誕生しました。交流センターに隣接する分譲マンションの管理も手がけ、協力体制も強固です。テナントビルや大学など、多岐にわたる施設の維持管理業務で高い評価を受け、指定管理業務は全国19施設に上っております。

一方、SPSは、サントリーホールオープン以来のご案内業務の実績を生かし、ホールのみならず、図書館や美術館まで、全国19の文化施設の指定管理業務を行っております。

私どもには、何よりもここ交流センターの立ち上げを手がけ、基盤整備を行ってきた実績と、ここで培った豊富なノウハウがございまして。先にも申し上げましたが、既に両者一体となったチーム小金井ができ上がっております。これに全国での実績から得た知見を加え、交流センターの運営に生かしてまいります。

続いて、事業についてご説明いたします。芸術文化公演事業の考え方について記述する様式がございませんでしたので、それが見えやすいように、様式3にあえて柱となるシリーズだけを挙げさせていただきます。

現状、月1～2本の鑑賞型公演を実施しておりますが、これは来期についても同様です。文

化芸術体験は鑑賞という受け身の形のみならず、市民の方々のさまざまな形での参加という機会ももちろん用意いたします。

また、子供たちの文化芸術体験の充実にもぜひ貢献したいと思っております。フィギュアスケートの羽生結弦選手が金メダルを夢見たのも、サッカーの本田圭佑選手がイタリアで10番をつけてプレーすることを目標としたのも、指揮者の佐渡裕さんがベルリンフィルを指揮すると宣言したのも小学生のときでした。そういう本物、一流の世界を知る機会があったからにはほかなりません。こういう文化施設が身近にでき、ここから羽ばたく人材が出ることを夢見ることができるのは素敵なこと、幸せなことだと思っております。

加えて、基本方針で掲げました地域コミュニティの「新しい広場」としても機能を果たすために、文化芸術には少し縁遠い市民の方々を含め、交流センターを身近に感じていただくためのプログラム、日曜カフェ、えんにち、まちかどコンサートなど、いろいろ用意しております。特に交流センター1階のマルチパーパススペースが「広場」としての機能の象徴的な場ですので、その活用を中心とした具体的な施策の詳細については、様式5及び6をごらんいただきたいと思っております。

小金井市からは、各界の第一線で活躍なさるたくさんの方を輩出しています。様式5の下のほうに、その豪華な顔ぶれの一部を挙げております。今期、既にこれらの音楽家を軸にしたオーケストラを結成し、注目を集めています。次期も私どもは小金井ゆかりにこだわってまいります。なぜならば、文化芸術への距離感を縮めることができます。羽生選手や、本田選手や、佐渡さんのような子供たちには、身近な憧れの存在、具体的な目標を示すこともできます。正真正銘、小金井オリジナル企画として、小金井の文化的魅力の発信にも貢献したいと思っております。

次に、貸館事業、受付、案内業務、サービスの向上についてです。立ち上げから手がけてきました私どもが、条例や、条例施行規則に則り、公平・公正を第一に、現行の貸出方法を一から作り上げました。その後も、利用者のお声やニーズを反映させながら、これを常に見直しています。昨年度通算の稼働率は、冒頭にも申し上げましたとおり、日数ベースでは90.3%、区分ベースでも81.9%に達しております。昨年度実施いたしました利用者アンケートでは、再利用の意向98%、リピーター率76%となっておりますので、現行の運営体制におおむね市民の信任はいただけているものと思っております。次期は練習室のインターネット予約も開始し、さらなる利用促進と満足度アップを目指してまいります。

また、この業務で大きな役割を果たしているのが、様式8に記載しました「こがねいコンシェルジュ」です。小金井市の花、桜をイメージしたピンク色のジャケットを制服とする受付スタッフは、既に市民の皆様にはおなじみとなっております。地元の方を中心に採用することで、地域と市民への愛着と共感を持って業務に当たっています。交流センターに関することはもとより、まちのご案内役としての情報提供も積極的に行っています。これもまた何度もお話ししていますまちの広場としての機能に欠かせぬ存在です。

続きまして、効率的な運営を支えます収支の考え方について簡単にご説明申し上げます。施設の貸出は既にフル稼働に近い状態になっております。利用料金は、消費税8%へのアップ時、利用者への還元として据え置きました。加えて10%へのアップ時も据え置き前提となっておりますので、利用料収入の大きな増加を見込むことは現実的ではないと考えます。

一方、エネルギー事情は当面好転することは考えにくく、施設や備品の経年劣化への対応も必要となっていきます。そうした支出の増大要因を抱えながらも、今期の実績から得たノウハウを駆使し、質を重視した予算の効果的執行を図ることで、指定管理委託料削減のご提案を可能にしました。

続きまして、安全で安定的な施設運営の継続的提供については、私からご説明申し上げます。

まず、施設管理については、三つの行動方針を踏襲します。一つ目は安全・安心、快適な環境の確保、二つ目はコストの削減、三つ目は資産価値の保持です。この三つは当然の役割ですが、竣工、立ち上げ期を経験し、1期目の実績があるからこそ、より強力な力を発揮できると確信しています。いずれも市民の人命、ニーズを最優先させることがポイントであり、共同事業体が文字どおりチームとして一体化を図り、臨んでいきます。

安定的な運営を継続させるためには、人材の適材適所が大変重要です。特に館長の役割は大切です。私どもは、文化芸術とホール運営において豊富な知識と経験を持つ人物を据えたことで、多くの市民に愛される施設づくりの成果を上げてきたと思っています。この館長を来期も続投させます。そして同様に、施設統括責任者、支配人も現行の人物を続投させます。現在もこの3名が統括部門を組織し、同じ事務所内で業務に当たることで意思疎通が図れ、指示・命令系統が明確となり、各部門の業務も円滑に動いています。この安定的な体制をさらに強固なものにしていきます。

舞台に関しては、現行の[]を継続させます。さらにトップには、来期の提案にふさわしい経験を積んだ人物を新たに配属します。

まとめとなりますが、設立5年から10年に向かう2期目は、市の文化芸術振興の未来をも決める重要な時期と考えます。その重さを受けとめ、1期目の基盤をさらに強固にするためには、交流センターを取り巻く全てのステークホルダーとの信頼関係と実績が必要と考えております。私どもは、現状に満足せず、常に発展に尽くすことを改めてお約束いたします。

以上で終了します。ご清聴ありがとうございました。

◎委員長 どうもありがとうございました。

説明が終了いたしました。これから質疑を行います。初めに委員長からお伺いし、その後、各委員から質問を行うことにしたいと思います。

初めに、まず確認したいのですが、役員の中に、市長、副市長、教育長、議員等本人、または配偶者及び2親等以内の親族がない旨の誓約書を提出していただいておりますけれども、このことに間違いはございませんでしょうか。

◎こがねいしてい共同事業体 ございませぬ。

◎委員長 わかりました。

それでは、私からまず1点、質問させていただきたいのですけれども、サントリーホールみたいなホールでしたら、誰を呼んでくるかということが一番重要な企画上の問題だと思うのですが、この小金井のホールのような場合は、今、お話の中にもありましたけれども、市民がそれを活用して、何か芸術的なもの、文化的なものを発信していくということも非常に大事な施設の目的になるわけですね。むしろそっちのほうが大事かもしれないですね。そういうふうに市民からの発信を促すためには、どういうことが管理者として必要なのか。他の施設でのご経験も随分おありかと思しますので、そのことも踏まえながら、ご意見をお聞かせいただければと思います。

◎こがねいしてい共同事業体 私からお答え申し上げます。

私ども、2年間、ここで既に仕事をさせていただいておまして、まず、小金井市の市民の皆様は文化活動は大変盛んだということ、いろいろな活動をしていらっしゃる方がいらっしゃることは本当によくわかっております。その方々と一緒につくり上げていくことがどういうことかということ、この2年間の中で重々わかったつもりでおまして、まずは皆様が自主的な活動をさらに発展させるためのお手伝いということで、私どもが、例えば、専門知識があることでプラスアルファができるかということも一つのやり方であろうと思っております。

それとはまた別に、私どもが市民参加の形、公募をする形で企画をするという企画もたくさんこれからつくっていきたいと思っております。特にこの2年間は、実は私ども、当初の予定よりも、指定期間がちょっと事情がありまして短くなっておりますので、正直、そこの部分、十分でなかったかなという部分はありますので、今回、特にこれの中で、市民がいろいろな形で参画できるご提案はさせていただいたつもりでおります。

◎委員長 具体的にはどういったことがありましたでしょうか。

◎こがねいしてい共同事業体 一つは、申し上げたとおり、必ずしも皆さんが芸術文化に縁がおありになるということではありませんので、まず、そういう方でない方も含めて、交流センターというのを身近に考えていただくという部分を大分大きく書かせていただいたのが、身近に感じていただく施策というところで書いたところです。

様式5のところに書いたことが、先ほどから何度も申し上げます「広場」としての機能ということで申し上げている部分で、必ずしも音楽や演劇や伝統芸能にご興味がなくても、あそこに交流センターができてよかった、便利になったと感じていただくための施策というものを、まず一番大きく打ち出しているのが今回の私どもの新しい提案の大きなところだと思っています。

それと同時に、もう一つはもちろん、そういう方たちをなるべく文化芸術に親しんでいただくという施策もしないといけないと思っておりますので、それが行動方針1に書きました文化芸術への扉を開くという行動方針の中にあらわれているものではありません。その中では、例えば、そこにもありますが、マルチパーパススペースにスペース「N」というコーナーがあ

るのですが、そのところでサロンのようなもの、新しい、いろいろな公演のプレ講座的なものを定期的に開くような仕組みをつくる、定期的にそれがあつて、日曜日に行つてみると、交流センターで何かやつていて、そこに行つてみると、その次の公演、コンサートや演劇の公演に行つてみたくなるような、そういう仕組みの流れをつくつていくような試みをやつていきたいなと思つております。ここが今回の私どもの提案で一番新しく打ち出させていただいたポイントだと思つております。

◎委員長 ありがとうございます。

ほかの委員から、いかがでしょうか。

◎専門委員 私から二つ伺います。

今、お答えいただけていたけれども、様式1で言う設置の目的を実行するために行動指針が三つ大きく出されているのですが、その中で、芸術文化への扉を開くということに触れられているのですが、次世代の鑑賞者を育成するという、今はまだ気づきの段階だとおっしゃつていたのですが、具体的なご提案というのは何かあるのかなというのが1点目。

それから、もう一点は、様式2で、野村不動産パートナーズとサントリーホールディングは全国でかなり多くの施設で代表企業としての指定管理を担つていらつしゃいます。小金井では、そのスケールメリットはどのようにこのホールの運営に生かしてもらえるのかということ。パートナーとしてペアを組まれていることのスケールメリットについて、お考えを伺いたいということです。

以上です。

◎こがねいしてい共同事業体 次世代の育成に関しては私から、まずお答えをしたいと思つます。

今、ご存じのとおり、子供たちの芸術体験の数値目標を出すということが掲げられているような時代です。正直申し上げますと、今期、教育委員会と必ずしもきちつとした取り組みが一緒にできているわけではないので、これは次期は大きな課題だと思つております。ただ、仮に学校の中に入つて行けずとも、私ども独自で子供たちにそういった機会をつくつていくことができると思つておりますので、一つは鑑賞機会の提供ということで、そういうものに触れる場を提供する。ここで書いている「親子のためのシリーズ」というシリーズを、これは集客や収益性の問題で言えば、なかなか厳しい部分もあるのですが、私どもの大事な仕事だと思つておりますので、これは大きな柱としてやつていきたいと思つております。

同時に、実際、先ほども申し上げた佐渡さんや羽生選手やといったような人たちが出てきたときに、この人たちに何か私たちが手を差し伸べられるかという部分なのですが、今、ここに小金井ゆかりで書いておりますオーケストラをつくつております。この中に、今、小金井に在住、あるいはゆかりを持っている若い音楽家たちも声をかけるようにしております。この人たちを、もちろん大きく育てるために、演奏の機会をつくるということもできると思つておりますので、例えば、アウトリーチのようなもの、この中で、まちかどコンサートという言い

方をしておりますけれども、そういう形で、若い子たちが実際仕事として多くの人たちの前で演奏する機会をつくることで、演奏家たちの育成という形のお手伝いはできると思っております。

スケールメリットにつきましては、おっしゃるとおりでございます。私どももある意味では意識して、企画内容によっては、他館に声をかけて連携して、1ダースなら安くなるというわけではございませんけれども、1館ではなかなか実現しないオリジナルの企画を実現したりしております。例えば、クラシックでは、ウィーンフィルのコンサートマスター、ホーネックさんのところの4人組を使つての、全国の私どもの管理させていただいているホールへ回すとか、それから、ポピュラーでは、この間やりましたのですけれども、森山良子さんの手づくりといひますか、アコースティックなコンサートを4館ほど共同企画することで実現させました。森山さんはファミリーがいらっしゃるので、本来ですとパッケージで公演されているのですけれども、そこを離れて、ピアノ一本と彼女というミニマムな形で、例えば、小金井のホールを考えたときに、ベストな組み合わせということで、それを逆に全国に展開したというような実例がございます。例えばという意味では、実例ご紹介ということでかえさせていただきたいと思ひます。

◎委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎専門委員 では、私から。様式の18になるかな、人数で、人の割り振りですけれども、部門ごとの職員数、配置についてですが、こがねいしてい共同事業体の場合は、現在担当なさつているので、現行の、我々の資料としては平成25年度のは全部出ています。それとの比較ということがこちらのグループの場合できますので、簡単に見てみますと、比較人数では、41とか、少しふえている形になるのですが、実際は■■■部門に■■名常勤が■■■で、■■■が常勤■■名が■■名減つて■■名になつたと。常勤の数に関しては同じ。その他の非常勤のポストに関しては、■■■が常勤■■名が常勤■■名で、あと全部非常勤ということで、基本的な差異はないというふうに見えるのですけれども、ですから、■■■の常勤■■名を■■■にして、■■■部門に■■を■■したということはどういうお考えでなさつたのでしょうか。

◎こがねいしてい共同事業体 まず、■■■のほうから答えさせていただきますが、現状、常勤2名、■■■を含めているのですけれども、実質的には■■■名で回すシフトになっておりまして、その■■■名に当たる部分についてを、次期については、■■■という形に、■■■といひますか、■■■という形で対応していただきますので、常勤としては■■名、ポストをワンポスト回すという形になります。

◎専門委員 なるほど。要するに、現行ということでは、最初に受けた状態のときのまゝになっていいますから、常勤3名というのがワンポスト3名でありましたのが、常勤■■名と、ワンポストは変わらずに、■■名と■■■に変えたということで、その分をという言い方はおかしいのですが、■■■ということですか。■■■のほうに■■名■■■ていひませんか。

◎こがねいしてい共同事業体 現行の体制との比較ということでしょうか。

◎専門委員 現行の体制です。

◎こがねいしてい共同事業体 現行は、今、事業マネジャーを兼任にしておりますけれども、来期、ご提案申し上げたように、いわゆるコミュニティプログラムのものがふえますので、事業マネジャーを専任できちっと配置をしようという設計にいたしました。

それと、あとは、先ほどの定義なのですが、定義も、特に立ち上げの今期に関してはいろいろ新しく、両者の間のこと、それから、市との間のことで多少業務量がありましたので、経理担当を置いておりましたが、来期以降は、経理は運営が兼任でやる形で、もう軌道に乗っておりますので、その分を、稼働率も上がってきたことで運営の仕事がふえておりますので、その中で賄っていこうという設計にしております。

◎専門委員 あと、これは実績的なお尋ねになってしまうのですが、舞台運営の部分は野村さんのほうの管轄でやっていますね。[REDACTED]さんに業者委託だということですが、これはメンバーの交代はございましたか、今までに。

◎こがねいしてい共同事業体 メンバーの交代はあります。

◎専門委員 何人ぐらい。

◎こがねいしてい共同事業体 毎年毎年、[REDACTED]さんの人事異動の関係がありますので、1年目が3名、2年目から3年目にかけて4名ほど。

◎専門委員 印象で言いますと、行くたびにかわっている感じはするのですね。舞台の方がですね。通常ではちょっとかわり過ぎというふうに思うのですが、その点については、ぜひそうでない形で、ずっといるという形は無理にしても、新人研修に使わせないようにお願いしたいのですが。ちょっとその傾向が見えます。これは提案書というよりも、現状に対する意見になってしまうのですが、ちょっと気になります。本当はこういう意見言うのはいけないのかもしれませんが、ちょっと気になるもので。委託しているから、逆に、委託先の都合によってしまうという形ではちょっと困るということになります。

◎委員長 ほかにはいかがでしょうか。

◎専門委員 事業実施件数なのですが、これも比較で申し上げるのですが、今回、一応、提案書の中では12件ということで、その他については細かいことが、それこそ様式5と6ですか、ということを書いてあって、数とかは書いていないのですが、基本的には25年度の実績だと、芸術文化事業というのが一応、15、それから、市民芸術の振興が10ということで、数が今、報告されています。12ということで、その事業収入予算2,100万円という提案になっているのですが、現実には25年度は2,400万円ぐらいの収入があります。提案書では支出も4,360万円となっているのですが、現実には4,600万円が支出になっている。すなわち、これから見ますと、提案上で見ますと、25年度よりも縮小という考え方に見えるのですが、いかがでしょうか。

◎こがねいしてい共同事業体 先ほど申し上げたように、実は、これはあえて柱となるような

ものだけを並べさせていただいて、逆に全部の本数で細かい企画を書きますと、コンセプトが見えにくいかなと思ったものですから、先ほどご説明したように、大きな柱となるシリーズだけを挙げております。事業規模自体はほぼ同じ形で、先ほど申し上げたように、月1～2本の鑑賞型の公演はやっていくつもりでおりますので、規模自体は変えるつもりはありません。

■委員おっしゃられた昨年度の実績で申し上げますと、ここまで申し上げたらあれなのかもしれませんが、実は、当初の予定よりも膨らんでおります。というのは、私ども、稼働率を頑張っているものですから、利用料収入が当初の予定よりもかなり上がってしまったのですね。それを利用者の皆様に還元するという形で、一つは、先ほど申し上げたように、8%の増税時に利用料を上げなかったということでお返ししました。それと、もう一つ、今、申し上げたように、当初の予算以上に事業の数をふやして、その形でお返ししたということがございますので、当初の1期目の設計はもともと主事業、大体4,000万円規模ということで組んであったものを、毎年、利用料収入がそういう形で非常に上がっているものを事業の形でお返ししていくために、当初の設計よりも毎年、事業費が上がっているということで、今、見ていただくと若干少なくなっているのですが、300万円ぐらいのものは後から、利益が上がった分を利用者還元で、事業の形でお返しした分で上乘せになったとお考えいただけるとありがたいと思います。当初の計画どおり、ことしも大体、事業規模としては1期と、当初の計画としては変えていないつもりです。本数はここに全部はあえて挙げなかったのも、少なく見えておりますが、本数自体は今期とほぼ同じ形でやるつもりですし、それプラス先ほど申し上げましたように、振興事業的なもの、コミュニティプログラムを増やした形でやっていきたいと思っております。

◎専門委員 別に規模を縮小するわけではないということと、それから、もし仮にそれが成果が上がっていた場合に、事業という形で市民還元をするというのが方針と思っていると、こういうことでよろしいですか。

◎こがねいしてい共同事業体 はい。来期についても、利用料収入がこれよりも上がっていけば、お返しの仕方は、先ほど申し上げたように、例えば、利用料金を消費税部分を転嫁せず据え置くということも一つあり得るかと思っておりますし、もちろん事業を増やすという形でお返しすることもできると思っておりますので、その方針は来期についても同じようにやっていきたいと思っております。

◎専門委員 わかりました。

◎委員長 そろそろ時間だと思いますが、個人的な興味でお聞きしたいのですけれども、ミッシェル・マイスキーのリサイタルがありましたよね。超一流の演奏家だと思うのですよね、こういう人は。この程度の規模と言ったら何ですけれども、どういうノウハウで呼んでくるのが可能なのでしょうかね。もちろん、可能な範囲でお答えいただければ。

◎こがねいしてい共同事業体 それこそ、先ほど申し上げた、ある種のスケールメリットのかなと思っております。私ども、申し上げたように、サントリーホールというグループの中に

ございますし、私自身も、昔、サントリーホールにおりましたということで、個人的なパイプも持っております。それから、SPSはもともと事業に強い会社でするので、幾つか持っている指定管理館の中で、ミッシェル・マイスキーのときもそうなのですが、ほかの指定管理館と共同で交渉してやらせてもらうということが実現したということでございます。来期について、ここに [REDACTED] というバイオリンリサイタルがあるのですが、これも同様に、実は、それほど全国区で、いろいろなところでツアーをする人ではないのですが、私どものSPSのほかの指定管理館と共同で事務所に交渉しましてやらせてもらうという話になっておりますので、その辺のところは、ある意味、スケールメリット、あるいはSPSの他館との連携の中で交渉力を上げて実現できる部分ではないかと思っております。

◎委員長 期待をしたいと思えます。

◎こがねいしてい共同事業体 ぜひお出かけください。

◎委員 マルチパーパススペースなのですけれども、当初、私が小金井で見ている分は、何か展示があってというような使われ方をするのかなと思っていたのが、自習室等で使われていることが多いという印象です。それは交流センターとして、市民の交流という捉え方ではいいのかもしれないですけれども、どういう感じで今までそういう運営をしてきたのか、考えをお聞かせいただきたいと思えます。

◎こがねいしてい共同事業体 あそこのスペースは、一応、貸出対象になっておりますので、基本的には市民の方の文化活動の成果発表の展示の場として使うことが想定はされております。ただ、それだけで365日使われているわけではありませんので、使われていないときに関しては、先ほども申し上げたように、待ち合わせでも、あるいは、あそこで簡単な打ち合わせをしていただいても構わないと思っております。

自習に関しては、実は市民の方にいろいろなお考えがおありになりまして、必ずしもあれをよしとは思っていらっしゃる方もいらっしゃるのですが、現実として、図書館の中にそういうスペースがないということで、あそこはかなりそういうニーズもあるとは思っておりますので、ほかの方の交流の妨げにならない範囲においては、特に貸出もなく、我々が使っていない場合は、そういう形の使い方もこれからも受け入れていっていいのかなとは考えております。

◎委員 少し利用料金のアップにはなるのかなと思うので、有料の使い方にもなるし。

◎こがねいしてい共同事業体 貸出をすればということですね。そうですね。今もちろん基本的には貸出が優先でするので、貸出のご希望があれば、基本的にはお貸出はしています。ただ、ああいうところですので、貸出で物を売りたい、営業的なものを使いたいというお声は結構あるのですが、今のところ、それは基本的にはお断りをしておりますので、あくまで市民の方の文化活動の成果発表の場としてご利用いただくことにしているという意味では、365日、貸出で埋まるという状況には、現在、なってはいないですね。

◎委員 その間で自習室等の貸出となっているという状態なのですね。

◎こがねいしてい共同事業体 そうですね。貸し出されていないときには皆さんに使っていた

だくということで、結果として自習スペース的な使われ方もしているというのが現状でございます。

◎委員 ありがとうございます。

◎専門委員 利用料金のことなのですが、この中で、直前申し込みについての割引料金を設定することを検討と書いてございますが、言ってみると、これも減収ですが、具体案としては何かお持ちですか。

◎こがねいしてい共同事業体 今、具体的な設計はまだできていないのですけれども、もう少し大ホールの平日の利用はふやしたいと思っております。その中で、そういう考え方も場合によってはできるのかなと思っておりますが、委員おっしゃるとおり、当然ながら割引をすれば減収になりますので、できれば所定の設計の中で、もう少し誘致できることがあればしていきたいなということは考えております。ただ、ホールの大きさに言うと、興行的なものでお使いただくのは、正直、現状難しい状況ですので、どうしてもリハーサル利用であるとかいうことで、ある程度の割引の形で誘致が必要になるのかなとは思っております。

◎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、時間が過ぎましたので、どうしてもというご意見はありませんか。

では、質疑は以上としたいと思います。

では、これをもちましてこがねいしてい共同事業体に対する第2次審査を終了いたします。審査結果につきましては、後日、担当課より文書にて通知することになります。それでは、どうもご苦労さまでした。

(こがねいしてい共同事業体退室)

◎委員長 それでは、評点を兼ねまして休憩を10分とりますので、その間に採点をお願いいたします。

(採点・休憩)

◎委員長 では、再開いたします。

(XXXXXXXXXX入室)

◎委員長 本日は、お忙しいところ、また、お暑い中を小金井市指定管理者選定委員会にご出席をいただき、ありがとうございます。

ただいまからXXXXXXXXXXさんに対する第2次審査を始めます。

初めに、提出していただいている申請書等に基づき、提案内容に沿って15分で簡潔に説明をお願いいたします。時間が来ましたら途中であっても終了といたしますので、ご注意ください。その後、各委員から質疑応答を20分程度行います。ご説明中に、あと3分の時点で一回ベルが鳴ります。15分経ちますとまたベルが鳴りますので、そこでやめていただくことになります。

それでは、説明をお願いいたします。

◎XXXXXXXXXX 本日は、このような機会をいただきまして、まことにありがと

うございます。[REDACTED]でございます。

まず、プレゼンテーションを始めさせていただく前に、出席者のご紹介だけ簡単にさせていただきます。

私、[REDACTED]、今回の共同事業体の代表企業を務めております執行役員の[REDACTED]でございます。

それから、同じく[REDACTED]の[REDACTED]でございます。

同じく、本日、プレゼンテーションを担当させていただきます[REDACTED]でございます。

構成企業のほうから、[REDACTED]の[REDACTED]でございます。

最後になりますが、今回、小金井市民交流センターの指定管理者として選定された際に館長候補者として立てております[REDACTED]でございます。どうぞよろしくお願いたします。

では、早速ではございますが、[REDACTED]より提案のご説明をさせていただきます。では、この後は座って進行させていただきます。

では、ご説明をさせていただきます。

まず、様式1をごらんください。当共同事業体は、小金井市民交流センターにかかわる全ての方にメリットをもたらし、4者共益を目指す地域文化振興の旗振り役を遂行いたします。駅前立地の交流センターは、「文化的都市・小金井」の顔として、市民の心の拠点、誇りの一つとなり得るよう、前指定管理からさらに上の段階へ進むべきと考えます。誰もが芸術文化を楽しめるまちへ、芸術文化の振興で人、まちを豊かにの基本方針のもと、芸術文化活動をサポートするつなぎ手として「文化のゆりかご」のような場を目指してまいります。

交流センターにおいて、芸術文化による地域文化振興を図るための業務について、業務基準書に規定された3種類の事業については、それぞれ役割を持った事業と捉え、まず、幅広く芸術文化を鑑賞いただく第1ステップ、芸術文化公演事業、市民がよりかかわりを深めるための第2ステップ、市民が市民交流センターを身近に感じるための事業、そして市民がみずから創作し発信する第3ステップ、市民と連携して実施する創造・創作事業、以上、それぞれの役割を明確にし、ステップごとにバランスよく、お互いに連携させた事業を実施することで基本方針を実現いたします。

様式2をごらんください。当共同事業体は、全国の芸術文化施設の運営及び年100個以上の事業、特に市民が主体となる創造・創作事業に数多くの実績を有する[REDACTED]が代表団体となり、全国の維持管理・運営のみならず、市民参加型事業などの実績も有する[REDACTED]を構成団体とする、交流センターにおいて最もふさわしい事業体と言えます。

なお、当共同事業体は、[REDACTED]など、既に他施設での管理・運営実績がございます。

続きまして、様式3をごらんください。文化振興事業についてご説明をさせていただきます。第1ステップの本提案における特徴は、実施本数を平成25年度の15本に対し、平成27年度では17本に増加させ、予算につきましても、平成25年度の実績4,600万円に対し、5か年平均で5,700万円を計画し、事業の質的向上と充実に努めております。

また、これまでの公演事業との差別化を図るために、その年の顔となるスペシャルライブを年1回実施し、さらに残りの指定管理期間に、これまで多摩地域で公演されたことのない室内オペラの開催を計画しております。これまでにない多彩な公演事業を通し、市民への芸術文化の着実な定着を図ってまいります。

事業内容の詳細につきましては、様式4をご参照ください。公演チケット販売につきましては、従来のサービス水準を落とさず、さらに利便性を充実させます。チケット販売システムを新しくし、スマートフォン対応とし、QRコードでチラシから簡単に購入ページへアクセス可能とします。また、現在の窓口受付の19時までを20時まで延ばすなど、利用者がより購入しやすい施策を実施いたします。

様式5をごらんください。第2ステップ、市民が市民交流センターを身近に感じるための事業の具体的な取り組みとして、マルチパーパススペースでの事業を重点的に実施いたします。過去実績を大幅に上回る年間14日以上を計画し、外の通行者にもにぎわいがわかるように仕掛け、交流センターの存在感や魅力をアピールいたします。

様式6をごらんください。第3ステップの具体的な取り組みとして、市民によるこがねビッグバンドオーケストラを組成いたします。同様の市民団体組成につきましては、XXXXXXXXXXを初め複数の実績があり、これらのノウハウを活用し、実現をさせます。指定管理期間中は、組織の立ち上げとともに、年1回の演奏会実施を目指し、最終的には、5年目以降、活動を継続し、市内だけではなく、市外で公演するまでの成長を目標としております。

続きまして、様式7をごらんください。受付窓口業務における現指定管理と大きく異なる点は、受付窓口の舞台経験のあるスタッフが配置されていることです。多種多様な舞台に関する要望やニーズを読み取り、スムーズな窓口業務を行います。さらに、受付業務の課題点を改善し、利便性をより向上させる取り組みを盛り込んでおり、例として現金持参のみの現在の受付から、新たに振込を可能といたします。

様式9をごらんください。友の会についてご説明をさせていただきます。友の会は、従来のファンを確実に引き継ぐとともに、次期指定管理期間においては、現在の会員数475名を700名にまでふやすことを目指します。具体的な取り組みといたしまして、年会費を1,500円に変更し、会員の長期継続を図った戦略的な価格設定を提案いたします。また、レセプション等々の事業に協力いただいた会員にポイントを付与し、集めたポイントでチケットに交換できるポイント制の導入を検討いたします。

様式10をごらんください。電子システムの導入につきましては、XXXXXXXXXXが開発したRITZシステムを導入いたします。文化施設における運營業務を受付から帳票出力まで総合管理をするシステムです。市民に対するメリットは、1、インターネットからの利用申し込みが可能。2、一度ユーザー登録をすれば、毎回の申請書記入の手間が不要。3、利用申請後は予約状況が自動的に利用スケジュール表に反映。4、自動的に金額が計算されるため、ミスのないスム

一ズな手続が可能となります。

続きまして、様式11をご参照ください。維持管理業務につきましてご説明いたします。まず、施設設備の不具合の早期発見、迅速な処置、予防保全の提案により、利用者の安全確保、機能維持並びに施設設備の長寿命化を実現いたします。また、各部署と密接に連携をいたしまして、利用スケジュールの繁忙期を避けた柔軟な点検等実施計画を立案することで、いつでも交流センターの機能を100%利用できる使いやすい施設を実現することを基本方針といたします。

では、様式13をごらんください。保安警備業務につきましては、夜間及び休館日は機械警備システムの併用と異常事態発生時における警備会社や[]の24時間コールセンターを通じた警備体制といたします。また、救命技能認定講習の受講、ホール内での災害発生に備えた避難訓練コンサートの開催など、安全管理体制の構築と職員の意識向上を図り、利用者の安全を確保いたします。

様式14をごらんください。ホームページにつきましては、現在の機能をそのままに、さらなる新機能追加を図ります。近隣ホールで標準装備のツイッターやフェイスブックを追加するとともに、利用予約機能や利用料金の自動積算機能などを追加し、多摩地区におけるトップクラスのホームページを目指します。

では、様式15をごらんください。定期広報紙につきましては、さらなる拡充を図ってまいります。基本発行部数を3万3,000部から4万3,000部までに増刷するなど、各発行部数をふやし、多くの市民や利用者に行き渡るようにいたします。また、交流センターの外壁を利用した広告や、JR武蔵小金井駅構内の広告など、これまでにはない広告ツールを最大限活用いたします。

では、最後に、館長候補者の[]をご紹介させていただきます。[]は、[]を初め、20年にわたり、文化振興や公演事業に数多くの実績を有しており、その専門知識や広報の経験を生かして、アートマネジャーの職責を有する館長として最もふさわしい人物です。それでは、[]よりご挨拶を申し上げます。

ただいま紹介にあずかりました[]です。

私は、民間の音楽事務所、レコード会社を経て、20年前より現勤務先で[]、[]という古いホールの活性化と[]をプロデュースするという仕事に携わってまいりました。

その経験で学んだのは、文化施設はまちの歴史と個性、その館でなければできない、その館だからこそできるという可能性を見つめ直し、地元の方々と一緒にふるさとをつくるという気持ちで取り組むべきだと思っております。

小金井は、自然と文化が調和した、とても美しいまちです。はげを中心に遊歩道や歴史遺産が整備され、どこを歩いても市民が文化活動に積極的に参加しているのが感じられます。そういった成熟したまちの力を結集し、内外に向かって発信するのが市民交流センターの役割

です。阿波おどりのあの爆発力、あの笑顔、豊かな文化を楽しむ市民の心、こういうものを一つにまとめるアイコンとなるべきだと思っています。

大事なキーワードとして考えているのは、「ともに育つ」ということです。小金井には9の小学校がありますが、まず、この子供たち全員が交流センターにかかわる仕掛けをつくっていきたい。例えば、10歳の子全員が文化芸術を楽しむ、そこで育つ体験ができるようにしたい。10年続けると、小金井で子供時代を過ごした全市民が市民交流センターを核とした文化体験を共有しているということになります。これは将来、都市小金井を支えていく大きな力になると思います。

そのためには、ただセンターの中で子供向けプログラムをやっているだけではだめで、学校に出かけて行って、日々子供たちと向き合っている先生方と対話をして、今、現場で子供を育てるのに何が必要なのかということを通して考えていきたいと思っています。また、東京学芸大学や農工大、法政大などの大学の研究室、学生さん、テクノスカレッジのような舞台芸術専門学校にも積極的に働きかけたいと思います。その過程で、もしかしたら、学校の側も新しい視点を開き、育つということもあるかもしれません。また、若い人たちも大学の枠を超えたプロジェクトにかかわることで育つ。また、ビッグバンドオーケストラのような活動を通じて、大人の市民もさらに豊かに育っていく。そして、市民交流センター自身も、新しいイメージ、強い求心力を持った文化施設として育っていくのだと思います。みんなが文化芸術を楽しみ、より広い範囲でつながり、共同することで育っていく新しい小金井のまちの姿をつくっていく。小金井市民交流センターはそのプラットフォームになるのだと思います。よろしくお願いいたします。

以上によりプレゼンテーションを終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

◎委員長 ありがとうございました。

説明が終了いたしました。これから質疑を行います。初めに委員長からお伺いして、その後、各委員から質問を行います。

初めに、まず私からお伺いしたいのですけれども、応募に当たりまして、役員の中に、市長、副市長、教育長、議員等本人、または配偶者及び2親等以内の親族がない旨の誓約書を提出していただいておりますけれども、このことに間違いはございませんでしょうか。

◎ [] 間違いございません。

◎委員長 それでは、最初に、まず私から1点、質問をいたしますけれども、本件施設のような施設の場合、もちろん、いろいろコンサート等の企画も重要なわけですが、それと同時に、市民の側から何かいろいろ文化や芸術的な活動を発信していくということも非常に重要な目的となると思うのですね。市民からの文化の発信のために、管理者としてどういうことが必要と考えておられるか、あるいは重要と考えておられるのか、今のご説明の中でも言及はあったのですけれども、もう一度、具体的に、少しお話しいただけますでしょうか。

◎ [] その件に関しては、[] から答えたいと思います。

先ほど申しましたように、小金井市というところは非常に市民の文化活動が盛んですね。NPOもございますし、それから、文化協会のような、鑑賞団体として非常に長い活動をしていらっしゃる方々もいらっしゃる。それから、学校、オーケストラ、合唱団、読書会とか、まちをちょっと歩いているだけで、市民の方々のサークルというのが非常に活発なのだなということがひしひしと伝わってきます。まずは、私どもが市民交流センターの管理者として指定されたならば、そういった団体の方々と一人一人コンタクトをとらせていただいて、どういった活動を目指していらっしゃるのか、今、何をしています、将来はどういうことをしたいのかという夢のようなものですね、そういったことを一つ一つ聞き取っていきたくて思っております。非常に地味な活動なのですが、そういった形でお互いの意見を交換していくとか、ビジョンを交換していくことで、これが解ですということを、今、かっこよく申し上げることはできないのですが、市民の方との対話をもとに構築をしていきたいと思っております。

◎委員長 わかりました。では、ニーズを把握して具体的な方策を考えていくということでしょうかね。

◎ [] はい。

◎委員長 それでは、ほかの委員の皆さんからいかがでしょうか。

◎専門委員 共同企業体のJVのあり方といいますか、組み方なのですが、様式17で見ますと、[]さんが維持管理、保安、警備、清掃ということで、基本的には[]さんが決めるということでございますが、企業体としては、異業種JVの形で、はっきり言って、金額と権限を分けて、おのこのの経理系は各社がやるというやり方ですか。それともJVの統括を進めるつもりですか。

◎ [] その件に関しては、[]から。

では、代表企業でございますので、私からお話しさせていただきます。

今回、JVで組ませていただいておりますけれども、基本的な経理処理でありますとか、もしくは契約行為等々については全て代表企業として、私ども[]が行います。全体のリスク等々についても、[]さんとはほかの箇所でも幾つかやらせていただいている中で、ケース・バイ・ケースにはなるのですが、リスクをお互いにシェアしようというやり方もございますし、全て代表企業である[]が負いますというやり方をしているところもあります。今回につきましては、[]のほうで全体リスクを基本的にはとらせていただくつもりでおります。

◎専門委員 ということは、JVとしての法的な形はとらないでということですね、

◎ [] そうですね。任意団体という形になるかと思えます。

◎専門委員 共同事業体という名前で提案、プロポーザルになっているのですが、実質上は[]さんが中心で、この部分について[]さんが担当するという考え方でよろしいですか。

◎ [] そのとおりでございます。

◎専門委員 そうですか。ということは、この中で何人が社員でいらっしゃるのか、別にお伺

いしませんけれども、いずれにしても、例えば、人を雇ったり、あるいは社員を出したり、その保証であるとかいうのは、■■■さんは■■■さんのほうで、全部本社側で面倒見るということになりますね。

◎■■■ そうですね。

◎専門委員 わかりました。様式的にそういうのが明確になっていないので。

◎■■■ そうですね。なかなか表現する場所が。

◎専門委員 表現していないと思うのですが、それをちょっとお伺いしたかったのです。

◎■■■ 失礼いたしました。

◎専門委員 建築JVみたいなことではないということですね。

◎■■■ ではないですね。

◎委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎専門委員 では、私から。3点ほど伺います。

まず、様式1の中で、テーマとして「文化のゆりかご」のような場所という表現をなさっていらっしゃるのですけれども、具体的なこと、内容というかな、知りたい。その中で鑑賞者育成に対する具体案というのは何かお考えになっていらっしゃるのか。

それから、もう一点は、■■■さんも■■■さんも大変多くの施設で指定管理で、運営なさっていらっしゃいますので、小金井市にとってスケールメリットは、売りとしては何なのだろうかという点を知りたい。

それから、もう一点ですが、こがねいビッグバンドオーケストラの結成というのが運営の目標の設定にも書かれていて、事業のほうにも書かれているのですけれども、この文章を読むと、レジデンス・ジャズ・オーケストラというふうにも読めるのですが、その辺の考え方を伺いたいのです。あわせて、長期的・継続的な運営と書いていらっしゃるのですが、次回の指定管理者の提案を束縛するものなのかどうかということも伺いたい。

以上3点でございます。

◎■■■ まず、質問の一つ目の「文化のゆりかご」の件に関して、私からお答えさせていただきます。

「文化のゆりかご」というところで、実は、こちらの企画を最初に提案を受けて、いろいろ検討させていただいたときに、当然、近隣の沿線上に、我々、■■■のほうで管理・運営させていただいています■■■と、それから、立川、それから、新宿、3館あるのですけれども、それぞれ特色がございまして、それと明らかに違う色を出すべきだろうというのが、当初の企画の社内での会議のところでも議論がありました。

というのは、ホールの席数とかいうところで、駅前の立地ですと、当然、興行性を重視した、1,000席以上の大型のホールを目指すのだと思うのですけれども、それをあえて578席のホールにした理由を考えますと、やはりこれは単なる興行的な部分を多くした施設のモデルではなくて、むしろ広くいろいろな市民の活動、プロからアマチュア、それから、学生まで含

めた、さまざまな多目的なホールとして設置された目的があるのではないか。だとすると、運営の部分に関しては、やはり「文化のゆりかご」的な部分で広く、いろいろな活動を支える性格を出すべきだと考えまして、この流れの部分の「文化のゆりかご」というキーワードを使わせていただきました。

続きまして、2番目の、多くの実績の中で、小金井市のスケールメリットという部分に関しては、最初は私から。これもやはり企画検討する段階におきまして、小金井市のスケールメリット、やはり駅前施設という部分が当然ありますし、実は、この提案をするときに、協力をいただきたいと思ひまして、いろいろな財団さんとかにお話をお伺いしてきました。そのときに、自分もそうなのですけれども、単館で何かしようということではなくて、小金井市といいますと、自分でもぱっと思いつくのが小金井公園ですね。こちらにはスポーツの祭典とか、ウォークラリーの起点になったりとか、非常にスポーツが盛んでございまして、いわずもがなのですけれども、その公園の中には当然、江戸たてももの園という、東京歴史文化財団が運営されている施設がございまして。そのところの団体が小金井交流センターの催し物でいらっしたりしているのですけれども、いまだ連動した状態の企画とかはやられていないのですね。お話に行ったときに、そういうところの部分ぜひやりたい、そういうところの部分ぜひコラボレーションしたい、当然そういうところもありますから、そこはやはり小金井市としては、そういうスケールメリット、複数の主要施設が当然ございまして、単館で頑張るのではなく、都内の財団や東京芸術大学も含めて、関係教育機関等を含めて、いろいろなコラボレーションをするチャンスがあると我々は考えまして、そのスケールメリットをぜひ生かすべきだと我々は考えております。

最後に、ビッグバンドオーケストラの部分に関してですが、これは[]のほうから。

その前に、ちょっと補足ですが、今の小金井市へのスケールメリットについては、[]JVということで、大きな組織がかかわっていることでのスケールメリットということもお尋ねになったのではないかと思いますので、これは当然、[]を初め、たくさんの全国のホールを管理しておりますので、そういったところのノウハウとか、失敗例も含めて、なるべく吸い取る形で、事業面でも、管理運営面でも当然だと思ひますが、生かしていきたいと思ひております。

例えば、市民が交流センターを身近に感じるための事業の中で、マルチパーパススペース事業ですね。にぎわいの創出を図る事業という、様式5にある、ちょっと字の小さい表なのですが、下のほうにパフォーミングアーツ公演、大道芸やダンスなどのパフォーミングアーツの公演というのがありますけれども、これは[]の[]のほうでも既に1年近く実施して、成功しております。具体的には、東京都のヘブンズアーティストに登録していらっしやる大道芸の方々を招いて、年に12回ほどのパフォーマンスを行っているということなのですが、こういった細かいところも、ここではどうだったと、ちょっと注意すべきところはどうだとかいうことですね。それを小金井に当てはめてきたときに何が可能かなと、何が小金井

独自でできるかなということ、全くゼロからやるのではなくて、[]という大きな組織のスケールメリットを使って行っていきたくと思います。

それから、先ほどお尋ねがありました鑑賞育成に関する具体案ということですが、当然、コンサートやパフォーマンス、本舞台の前のレクチャーとか、それに関するワークショップとか、こういったものはなるべく一つの公演に対して一つずつ行っていくぐらいのスケールでいきたくと思います。そういった事業計画表になっております。

それから、2年目から、平成28年度からの事業が、「[]」とか、「[]」というところで、様式3のほかにあいまいなようにとれるタイトルがあるのですけれども、これは言うてみれば、先ほど [] が申しましたように、いろいろなジャンルの芸術ですね、こういったものを楽しめる市民の方々にいらっしゃる。である以上、例えば、クラシックはクラシック音楽だけ、寄席は寄席だけとか、演劇は演劇だけということで、ファン層が固定化して、それは行くけれども、ほかの催しのときには市民交流センターに足を運ばないということではなくて、なるべくコラボレーションをしたりとか、出演者を工夫するなどして、ほかのジャンルにも市民が、今まで関心を持たなかった芸術などにも足を運べるような事業展開をしたいと思っています。それも一つの鑑賞普及のあり方というか、より豊かに、多彩に文化を楽しめるシーンを、大人であっても育成していく、そういうふうな考え方でおります。

最後にビッグバンドオーケストラですけれども、レジデンスジャズオケをつくと読める提案書になっているのですけれども、正直申しまして、ジャズオケには限らないだろうと思っています。冒頭のご質問にお答えしたときに、小金井にある、いろいろな文化団体の方とお話をして今後の方策を練っていきたくと申し上げましたけれども、小金井の場合、今の指定管理者のほうで、こがねいガラ・コンサートというのをなされていて、N響の茂木大輔さんもいらっしゃるし、非常に在住の文化人の方がいらっしゃいます。そういう方々に率直にご相談に行きまして、今、小金井で音楽文化をこれから振興していくとすれば何がいいだろうということを膝詰めでご相談したいと思っています。それから、市民の方々にも、説明会といいますか、懇話会のようなものを開いて、何がやっていきたいだろうと。皆さん、定期演奏会なども活発にやっいらっしゃるので、そういったものにプラスアルファして、何をやったらおもしろいだろうねということをお話するタウンミーティングのようなものを開いて活動の方向を決めていきたくと思っています。

当然、そういったことを1年間かけて丁寧にやりますと、次の1年は立ち上げですね。それが順調に回り始めて3年目となりますから、4年、5年目で花が咲いて、次の指定管理期間、束縛するのかどうかというご質問でしたけれども、非常に素晴らしいと市民の皆さんが思えば、それは継続していくという方針になるでしょうし、その辺はやはり5年という節目でもう一度再評価をするというものではないかと思っています。

◎専門委員 それに関してなのですが、實際上、自主興行という形でやるということをお願い

するわけなのですけれども、簡単に言ってしまうと興行企画みたいなものは、館長と、18番で言いますと企画責任者、文化事業の企画政策を5年以上という方がいらっしゃるという、この2人の方でおやりになるという、体制としてはね、書かれているのですが、実質的な意味で、例えば、[]さんのほうでは、今、私、はっきりしていないのですが、[]というものがありますかね。

◎ [] 昔ありました。

◎**専門委員** 昔ありましたね。そういう記憶があるのですが、旧部門が今、どういう形になっているのか、具体的に自信がないのですが、そういうようなことも、要するにサポートなさるのでしょうか。それとも基本的には[]さんを中心とした人脈、関係ということでやっていくのでしょうか。

◎ [] そのご質問に対しては、[]から回答をよろしくお願いたします。

私ども[]としては、先ほどスケールメリットというお話もございましたけれども、よくある指定管理者のやり方として、本社が全ての事業の買いつけを行って、各ホールにおいていく、こういうやり方をするのが一つ、スケールメリットを生み出すということであれば、やり方としてあるのですが、実は私ども[]はそのやり方は今のところしておりません。全て個別のホールの特性があるということを前提としておりますので、[]本体で企画を全て決めて、小金井であれば、小金井ではこの事業をやりなさいということはまずしていないのですね。全て現場で基本には立てさせています。ただし、その中でよくあるのは、例えば、劇団四季が複数の館でかぶりましたといったときには、私ども本社が統括をさせていただいて、劇団四季と交渉させていただく、こういったことはさせていただいています。また、全国の事業を私ども担当させていただいておりますが、統括をさせていただいているのが私どもの施設開発事業本部というところがございますので、東京の[]だけではなくて、北海道から九州までの事業に関して、全ての情報が集まってくるので、そこでスケールメリット等を出せる場合は出していくということを見せていただいているところですね。

◎**委員長** ほかにいかがでしょうか。

◎**委員** 今まで、いろいろイベント的なところといいますか、催し物のお話があったのですが、あえて施設の安全面というか、管理面のところで、いただいた資料の17ページのところを見させていただきますと、本館といいますか、施設そのものの管理の面で、これを見る限りだと、ちょっと弱いなというか、どうなのだろうかという、何かあったときのということで、特にJVという中で、何かあったとき、それから、日常の管理、この辺のお互いのコミュニケーションといいますか、運営面の中で、支障がなければいいのですけれども、ちょっと心配があったものですから、その辺、補足していただければと思います。

◎ [] そのご質問に関しては、設備のメインでしょうから、[]の[]のほうからお答えします。

◎委員 ごめんなさい、統括される館長さんがアートの方面の方というか、そういう中での、それも含めてお願いします。

◎ [REDACTED] わかりました。そうしましたら、私からご説明させていただきます。

実は、当社も幾つか指定管理で、こういう文化ホールの管理をさせていただいています。当然、館長の役割というのが、それぞれの自治体で求められているものが違うものですから、ただ、こちらの小金井の要項を見たときに、文化振興事業の部分が非常に厚く要項に書かれている特色が出ているのがわかったものですから、普通の館長の、管理畑の強い館長を持ってくるよりも、アートマネジャー、恐らく市さんが求めていらっしゃる小金井市発、小金井市独自の、そういったものの団体なり、催し物なり、小金井市ならではのものをつくるべきだということをひしひしと感じたのですね。

そうなりますと、事業企画担当者、通常で言うと、責任者だけで回すのはかなり厳しかろうと。どちらかという、館の外に、いろいろな団体と、外に出て協働といいますか、今までの館長、ほかの館でもいらっしゃるのですけれども、外と連携して、いろいろな協議とかをさせるために出て行く体制が必要なのではないかということで、通常ですと、事務受付責任者のところの部分を副館長として、館全体の管理を館長と一緒にやっていくという、この体制に、今回、提案させていただいています。通常、ここの副館長が中心になって、館長の代行を含めた形で、全般を管理運営をするというところの部分でやらせていただきたいと思っています。当然、[REDACTED]さんと合同していて、連携という部分のご心配のところなのかなと思っていますけれども、こちらに関しては、開館前の研修、それから、スタッフの研修とかの部分も含めて、舞台に関係する部分だから、舞台の担当の者しか研修をしないということではなくて、全員が受けるようにします。というのは、利用者様が舞台を利用したい、ホールを利用したい、いろいろな目的でいらっしゃいますから、それを、清掃であろうと、警備であろうと、やはり簡単に聞かれると思うのですね。その部分を全員で研修して、同じレベルに立ってやれるということで、マルチジョブの考え方を我々は持っています、ほかの施設、[REDACTED]さんと一緒にやっている施設においても、一緒に研修を受けて対応できる体制にさせていただいております。したがって、そちらのほうで、このときに施設管理責任者がいないから、何かあってもわからないという体制にしないような体制で運営させていただきます。そういうお答えでよろしいでしょうか。

ちょっと補足だけさせてください。私ども、先ほどのスケールメリットにかかわりますけれども、北海道から九州までの事故情報は全て東京に上がってくるようになっております。事故の中身も、いわゆる舞台操作系の事故もあれば、施設管理系の事故もございます。それから、例えば、ダブルブッキングというような運営上の事故もございまして、それらの情報を全て東京で集約いたしまして、月1回、会議を行っております。各ホールから責任者の方に出てきていただいて、全て情報を共有するという形をとっております、今回、小金井も、私どもが指

定管理者に選定された場合には、その管理の一環に入っただいて、全国の事故情報が現場までおりにくる。自分のところで発生するか、しないかは別問題としても、その情報は共有してくださいというネットワークを構築させていただいております。

◎委員長 ほかにはいかがでしょうか。

◎専門委員 様式9と15にネーミングライツという表記が2か所出てくるのですが、その可能性というのでしょうか、規模とか、その辺をちょっと伺えればと思います。

それから、もう一つ、15のところの広報の中で、駅張りやバスの中へのポスター掲示、これは23-1に入っている収支の予算の中にその経費も含まれているのかどうか、この辺を伺いたい。

◎ [] その件に関しては、私からお答えさせていただきます。

ネーミングライツに関しては、現地説明会のときに市のご担当者からお話をいただいた部分がございます。それに対して、ただ館の名前を変えただけということで、本当にメリットが出るのだろうかという部分。当然、指定管理として何かご対応で、市と協力すべき部分があるのではないかとこのところで、様式9の友の会の組織名ですとか、そういったところでネーミングライツの協力のところの部分由市と協議した上で進められたら提案になるのではないかとこのところで、こちらとしては、必ずそうしなければいけないという、そういうことではなくて、市が交渉しやすいようにと伺いますか、そういったところの部分。せっかくネーミングライツで名前がつくのである以上は、やはりその部分は、指定管理のところの部分、広報物とか掲示物が全然的な外れと伺いますか、全く名前を使わないで動くというのは、これまたちょっと、ダブルスタンダードっぽくて、一体感が全くないというのでは、それは全く意味のない話でして、やはり小金井市のスケールメリットでしたり、そういったところを活用すべきであれば、一旦ネーミングライツを使われた以上は、それに対して我々はどう向き合うべきかというところの部分指定管理として向き合おうという考え方で書かせていただいております。

質問の2番目の駅張りの広告等々に関しては、ご質問のとおり、予算収支の部分に入っております。事前にJR東日本企画様に費用とかもお伺いしてまして、一応、年掲示するところになりますという費用も全部いただいて、費用のほうには入れております。

◎委員長 よろしいでしょうか。

[]さんは、[]とか、[]の運営に携わっておられたのですか。

◎ [] はい、そうです。

◎委員長 私、高校まで横浜にいたので、[]の[]なんてよく行ったので懐かしいのですけれども、まだあるのですか、あのホール。

◎ [] 今年60周年を祝っております。

◎委員長 ああ、そうですか。アンドラーシュ・シフのピアノリサイタルとか、ペーター・シュライヤーのテノールとか、ピエール・フルニエのチェロリサイタルとか、今でもありありと思い出すようないいコンサートを随分あそこで聞いたのですけれども、小金井にもあのクラス

の方々を呼んできていただける可能性というのはあるのですか。

◎ [] ぜひそうしたいと思っております。呼んでくるだけではなく、[] は日本で [] だったわけですが、その当時はそういった人たちが来るだけで一つのニュースだったと思うのですが、今や、23区で言うと、サントリホールを初めとして、日本というのは巨大な市場で、一流のアーティストがたくさん来るのです。それだけではだめで、小金井だけのプログラムをやってくれということ、そういった一流のアーティストに働きかけて、もちろんマネージャーさんを通してになりますけれども、必ずアーティストは日本に来るためのツアープログラムを持っているのですが、例えば、全国ツアーを回すための、あるいは小金井のようなところではなくて、語弊がありますが、もっと田舎のほうのホールでもお客さんを集められるための、割と最大公約数的なプログラムだったりするのです。ですけれども、アーティストというのは必ず、本当は自分はこれをやりたいのだ、もっと先鋭的な、話のわかっているお客さんだから、こういうことをやってみたいんだよね、これをやったらおもしろいと思ってるんだよねと思ってるのです。プランBとか、Cとか、Dとかいうのはですね。そういうのを引き出して、東京ではこれはできないかもしれないけれども、小金井でやろうよと、23区でできなくても、小金井でやってみないか、ここのお客さんはついてくるからということ、余り先走ってはいけないのですけれども、その辺、お客さんの様子を見ながら、半歩先に行くプログラムを組んでいきたいと思っております。

現実には [] という話がありましたけれども、私、 [] と、 [] の小ホール、433席のホールを2年ほど、ほぼ1人で回していたのですが、そちらではステイブ・イッサーリスという、ヨーヨーマに匹敵すると言われるチェリストがいるのですが、その人と話して、招聘元の許可を得て、メールで何度か直接やりとりをして、ここだけのプログラムをつくってくれということで、子供向けのプログラムを含めて、いろいろなことをやってくれましたので、これも対話をすることで、世界一流の、しかも独自のものを小金井から発信することができると思っております。

◎委員長 まだデビューしたばかりのシフがすごい頑張っ弾いて、すごい熱演で、最後、暑くなって、上着を脱いでピアノの椅子に引っかけて、5曲アンコールをやったのです。ああいう経験が身近でできるといいですね。

◎ [] 伝説ですね。そういうものも、10年、20年、このホールを運営していくと、一つの歴史になっていくと思うので、幸いに新しくできたばかりのホールですから、ここで独自のプログラムをいろいろやっていくことで、いつか、小金井の歴史になるだけではなくて、日本の文化の歴史の一端になっていく、あそこのホールでそういうことがあったということが全国に知られていく、そんなふうにできたら理想だと思っております。

◎委員長 すみません、個人的に思い出して懐かしくて、余計なことを聞いてしまいました。それでは、よろしいでしょうか。

以上をもちまして [REDACTED] に対する第2次審査を終了いたします。審査結果につきましては、後日、担当課より文書にて通知することになります。それでは、どうもご苦労さまでした。

([REDACTED] 退室)

◎委員長 それでは、採点いただいて、その後休憩といたします。12時20分再開ということでお願いします。

(採点・休憩)

◎委員長 再開いたします。第2次審査は終了いたしました。採点を行っていただきましたので、その結果につきまして事務局から報告させていただきます。

◎水落企画政策課長 小金井市民交流センターの指定管理者候補者の選定に係る第2次審査評点票の4人の選定委員と2人の選定アドバイザーの合計点につきまして報告いたします。

こがねいしてい共同事業体 462点

[REDACTED] 446点

以上の結果、合計点の第1位はこがねいしてい共同事業体、第2位は [REDACTED] となりました。

以上です。

◎委員長 事務局から報告がありましたように、合計点数の高い順で、第1位はこがねいしてい共同事業体、第2位は [REDACTED] でした。

第1位であるこがねいしてい共同事業体を小金井市民交流センターの指定管理者候補者として選定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

◎委員長 異議なしと認めます。

それでは、こがねいしてい共同事業体を選定するに当たり、選定理由として優れている点を2～3点、もし何か要望があれば要望事項を、小金井市長へ報告することといたしたいと思えます。

それでは、しばらく、休憩させていただき、最終的にまとめたいと思います。

(休憩)

◎委員長 再開いたします。

指定管理者候補者として選定いたしました、こがねいしてい共同事業体について、優れている点、要望事項について、とりまとめた試案についてお諮りしたいと思います。

こがねいしてい共同事業体を選定するにあたり、他者と比較して優れている点としては、
1点目、本施設を地域コミュニティの「新しい広場」として活用することが提案されており、市民が芸術に親しむとともに、市民の側から文化を発信する拠点となることが期待できること。

2点目、同種施設の企画・運営に優れた実績があり、それを本市の文化・芸術活動に反映させることが期待できること。

3点目、堅実な経営基盤があり、施設の継続的・安定的な運営が見込まれること。

また、要望事項といたしましては、

1点目、市民参加の他に、教育普及事業についても充実を図っていただきたい。

2点目、舞台技術者には、熟練したスタッフを配置し、市民が継続的に安心して利用できるように配慮していただきたい。

3点目、ホームページのデザイン・内容を見直し、利用者の利便性を向上させていただきたい。

以上とすることといたしたいと思いますがいかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

◎委員長 それでは、ただいま申し上げましたとおり決定し、これらを付記して、小金井市長に答申いたします。

以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。

本日は、これをもって閉会いたします。お疲れ様でした。

(午後1時05分閉会)